

静岡福祉文化を考える会

代表 平田 厚

〒424-0841 静岡市清水区追分 3-5-17

NPO 法人泉の会内 Tel054-367-2878 Fax: 054-367-2884

編集委員

藤下品子 古屋貴彦 河野恵介 平田厚

Our Life 131 号

- * 内 容 ***
- 「日本福祉文化学会」発「静岡発福祉文化の創造」の誕生と「福祉文化研究セミナー」 …P.1
 - 第19回静岡県福祉文化研究セミナーは「学会中部東海ブロック研修会」を兼ねて開催 …P.3
 - 「ご近所福祉その意識と実態調査」準備作業始動 ……………P.3
 - 「みずほ教育福祉財団」助成決定 プロジェクター機器で研修効果さらに高める ……………P.4
 - 「本会ブログ立ち上げ」「編集後記」 ……………P.4

「日本福祉文化学会」発「静岡発 福祉文化の創造」誕生 19年間つないできた「福祉文化研究セミナー」の意味は

今こそ、この厳しい社会の中で求められる「地方発 福祉文化の創造」。本会が結成して25年。そして、「第13回日本福祉文化学会全国大会静岡大会&静岡県福祉文化研究セミナー:大会テーマ 富士山麓いのちと暮らしによりそう福祉文化の創造と推進」から今年で19年目を迎えた。昨年、中部東海ブロックでは2回目の学会大会が、愛知県名古屋市の中京大学名古屋キャンパスで「第30回東海大会:テーマ 名古屋発“福祉文化元年”を築く〜今こそ、人を育てる、アートを創る〜」が開催された。全国大会を開催するにあたり、「全国大会」後、いかにして「地方発福祉文化の創造」による地域づくりを継続していくことが出来るかを念頭に議論を積み重ねている。改めて、本号で、「静岡福祉文化を考える会」の誕生から、今日までの動きを振り返ってみる。1989年7月、日本福祉文化学会が設立。その6年後、阪神淡路大震災1年後「第11回学会現場セミナー」を静岡県浜松市で2日間にわたり開催した。開催直後、セミナーに関わった若者層中心に「静岡福祉文化を考える会」(当時、男性39名、女性23名 計62名、現在、男性15名、女性6名 計21名)が誕生。活動6年目の2000年「第11回学会全国大会(仏教大学)」において、2年後の「第13回全国大会は静岡県」の開催が決定した。「静岡福祉文化を考える会」中心に、「静岡大会」をいかに実現するかを県内外に大会参加協力を呼びかけ、早速に「実行委員会」(42名)を組織化した。参画した意欲的な実行委員の提案により、「第13回学会大会静岡大会イベント:富士山麓 21世紀 福祉文化の今とこれから」(県民350名参加 写真左参照)開催が実現し、静岡県民への「地方発 福祉文化の創造」の啓発活動により、本大会につなげるプロセスがあった。実行委員会では、大会テーマ決定、会場の選定等相当議論を深め合った。静岡県なら「富士山」の麓を会場にしよう、住民主体に運営できる会場、より多くの市民参加につなげるには、行政や社協の全面的な協力が不可欠である等の意見を基に、公共施設の開放を呼びかけた。今日という「協働」による開催実現へのルールが着実に敷かれた。



「静岡福祉文化を考える会」の誕生の経緯と同様、「学会大会」終了後に、しっかりと開催地元に「福祉文化」が根付くように、「実行委員会」では、毎回「地方発福祉文化の創造の推進」の議論を積み重ねた。

「第13回静岡大会(全国各地から650名参加)」(写真右参照)終了後は、「静岡県福祉文化研究セミナー」をより多くの静岡県民に参加の呼びかけ、繋ぎ続けて、2020年度は19年目を迎える。今日では、県民の各種研修への参加の呼び掛けに苦勞の多い課題が山積しているが、あの時代(18年前)は、県民自らが、積極的に地域活動に参加し学び合う地域環境があったように感じる。

今日、「住民主体の地域づくり」は、ほとんど「行政言葉」に置き換えられて、市民に呼びかけているが、今の時代だからこそ、住民自らの地域づくり、言い換えれば、「福祉文化の創造」を県民が積極的に呼びかけていく大切な時代とも感じる。年々、参加者層が減少している状況の中で、何とかここまで継続している。

- * 第01回 「富士山麓いのちと暮らしによりそう福祉文化の創造と推進」 ……裾野市民文化会館 600名
 - * 第02回 「全ての人々が豊かに生きるための福祉文化」 ……静岡福祉大学 153名
 - * 第03回 「地域福祉と福祉文化を探る」 ……富士川町地域福祉センター 120名
 - * 第04回 「つながる地域に福祉文化を発信できる新たなまちづくりを語る」 ……静岡福祉大学 110名
 - * 第05回 「静岡から発信する“福祉文化の創造”とはなにか」 ……静岡福祉大学 120名
 - * 第06回 「これからの地域社会は一体誰が担うのか—地域と団塊の世代の役割を検証」 県労政会館 80名
 - * 第07回 「長寿者と共に暮らす共生社会の担い手は誰か？」 ……県総合社会福祉会館 100名
 - * 第08回 「長寿者と共に小地域をつなぐ仕組みづくり実現に向けて」 ……県総合社会福祉会館 70名
 - * 第09回 「地方発“福祉文化の創造”これからののご近所づくりの原点を探る」 ……県総合社会福祉会館 40名
 - * 第10回 「“福祉文化の創造”の原点に振り返って—世代を超えて語り合う—」 ……県総合社会福祉会館 46名
 - * 第11回 「福祉文化と家族—これまでの家族とこれからの家族—」 ……県総合社会福祉会館 50名
 - * 第12回 「地域を変える新たな支え合いのシステムを生み出す」 ……県総合社会福祉会館 50名
 - * 第13回 「静岡発 福祉文化の創造—人々が豊かに暮らし合い、安心して暮らせる地域づくり」
 ※下段の写真が当時の研修雰囲気 県総合社会福祉会館 40名
 - * 第14回 「静岡発 福祉文化の創造による豊かに暮らせる生活圏域の地域づくり」
 県総合社会福祉会館 30名
 - * 第15回 「静岡発 福祉文化の創造と豊かなご近所福祉づくり」 ……県総合社会福祉会館 30名
 - * 第16回 「静岡発 福祉文化の創造とホッとする居場所」 ……清水区「寄ってっ亭」30名
 - * 第17回 「静岡発 福祉文化の創造と子どもの支援を考える」 ……清水区「寄ってっ亭」20名
 - * 第18回 「静岡発 福祉文化の創造 福祉文化と子ども」 ……清水区「寄ってっ亭」20名
- そして、2020年度の開催は、10月25日(日)13:00より、集落の自宅開放型居場所を会場に開催。
- * 第19回 「ホッとする、ご近所のささえあいには誰が創る？」 ……清水区「寄ってっ亭」

人々が、ささえあいながら、住み慣れた地域で暮らし合う地域環境をいかにして創り出すか、地域の現状をしっかりと把握しながら、「共助」による福祉コミュニティ構築に向け、改めて、「福祉を文化にする、静岡発福祉文化の創造」(豊かに暮らせる身近な地域づくりを日々努力する)とは何かを、今回のセミナーでは「ご近所福祉(近助)」をキーワードに、市民と共に、生活圏域の地域環境について語り合う。

特に、「コロナ禍」の今、これまでのご近所福祉を検証し、これからのご近所福祉のあり方を探り、いかにして、住民主体を基盤にした「協働」による地域ぐるみのコミュニティ組織を維持することが出来るか意見を出し合う。昨年、11月30日・12月1日に、愛知県名古屋市中京大学名古屋キャンパスにおいて開催した「第30回学会全国大会東海大会」では、「第1回中部東海ブロック大会」を付記し、大会後は「学会中部東海ブロック活動」の活性化を基に、継続的にブロック大会を開催することを確認し、9月5日に、名古屋市において「第2回ブロック大会」を計画していたが、コロナ禍により、12月5日に延期をすることとした。

そのため、静岡県福祉文化研究セミナーに「中部東ブロック研修会」付記して開催することとして、中部東海ブロック会員に参加を呼び掛けることとした。これまでの「セミナー」を写真で振り返る。



**第13回学会全国大会・静岡大会（平成14年11月）から始まった「福祉文化研究セミナー」
19回セミナーを「日本福祉文化学会中部東海ブロック研修会」を兼ね10月25日に開催します。
ぜひ、ご参加ください。 参加費:無料 定員:20名
テーマ:「ホッとするご近所のささえあいには誰が創る？」**

*期 日: 令和2年10月25日(日) 13:00~16:30

*会 場: NPO 法人泉の会「寄ってっ亭」(〒424-0841 静岡市清水区追分3-5-17 Tel.054-367-2878)

*内 容: (1) 問題提起 「誰がご近所福祉を創るのか、気になるこの先……………」

(2) 円卓トーク「近所福祉に関わって」

(3) ワークショップ「ホッとする こんなご近所福祉をめざして」

○参加申し込み・問い合わせ: 〒425-0041 焼津市石津751-1 静岡福祉文化を考える会 代表 平田厚 Tel&FAX054-624-1924

**2020年度調査研究活動事業 「焼津福祉文化共創研究会」と協働で取り組む
人・家族・地域がつながり合う、これからの“福祉力”を探る
ご近所福祉その意識と実態調査いよいよ本格的に動く**

すでに、本号において掲載してきた「2020年度 調査研究事業」は、「焼津福祉文化共創研究会」との協働事業として、4月以降、定期的に検討会に取り組んでいる。「焼津福祉文化共創研究会」は、2016~2018年度の3年間にわたり、住民主体の「港地域ささえあい講座」（約5,000世帯の中学校区・公民館を拠点とする、2つの自治会組織で構成する地域）に取り組み、この講座に関わった実行委員有志と市民により、2019年度に「生活圏域の福祉問題に取り組む志縁団体」として発足した。

結成初年度（2019年度）は「居場所検証」として、既存の住民主体の団体・グループの現状把握に取り組み「港地域の居場所検証報告書」として取りまとめた。今回の調査研究活動は、厳しいコロナ禍を契機に、これまでのご近所の支え合いから、これからの支え合いについて、本会と協働活動により、全県域と焼津市港地域の地域性をもとに住民の意識と実態を把握し、これからの「ご近所福祉」のあり方について、住民主体で、調査個票の作成検討をはじめ、調査協力依頼、回収、データ入力・考察等のプロセスを通じて課題を整理し、その改善・解決に向けた提言を取りまとめることとしている。

「静岡福祉文化を考える会」は、結成以来、24年間「静岡発 福祉文化の創造」を目指した実践活動の大きな柱立ての一つに、その時代の地域社会を取り巻く様々な福祉課題を「調査テーマ」にした「調査研究活動」に取り組み、その分析結果を、県内各方面での研修会や本会の公開型研修会などで公表し、世代を超えた「地域総合型学習」を通じて問題提起をし、県民一人ひとりの意識改革に努めてきた。

特に、本会の調査研究活動では、「地域」「ご近所福祉」をキーワードにした「調査」は、

※平成10年度 ②「私たちにとって、地域とは何か—その1—意識と実態調査」そして、6年後に

※平成16年度 ⑧「地域とはなにか—その2—意識と実態調査」その後、8年後に、

※平成25年度 ⑱「長寿者とつながる ホッとするご近所づくりその意識と実態調査」（静岡県委託事業）

※平成26年度 ⑲「豊かに暮らせる地域づくりその意識と実態調査」（静岡県委託事業）2年後に、

※平成28年度 ㉑「ご近所福祉 その意識と実態調査」をそれぞれ、関連付けて実施してきた。そして4年後の2020年度、再び「協働」による「ご近所福祉その意識と実態調査」に取り組むことにした。

★対象 県内20代以上の方々を年代・世代・領域等を考慮して、約400名程度の回収を目標に実施

★調査項目 (1) 基本属性 (2) 地域との関わりの意識 (3) 地域との関わりの実態 (4) 地域参加の動向 (5) 地域環境 (6) 提言(自由意見)等、29の設問を予定する

★調査展開 (1) 調査項目・調査票検討 6月~9月 住民主体に、定例会及び調査研究部会等で検討

(2) 調査票まとめ 9月30日

(3) 調査依頼/回収期間 10月1日~11月30日 ※調査時点 10月1日

(4) 入力/分析・考察 10月10日~1月20日 定例会及び調査研究部会等で実施

(5) 公表・報告 令和3年2月下旬

① 本会研修会及び関係機関・団体等の各種研修会で経過報告実施

② 「焼津福祉文化共創研究会通信」で随時経過・概要を紹介

③ 「ご近所福祉その意識と実態調査報告書」としてまとめる

「第37回 みずほ教育福祉財団 老後を豊かにするボランティア活動資金助成事業」 により、活動資器材「プロジェクター・スクリーン」の決定をいただく

本会は、これまで、公開型研修会は、すべて、参加者に配布資料を基に開催してきた。かねて、県民対象の研修会に「プロジェクター」の活用による成果を検討していた。

このたびの助成申請は、「高齢者を対象として生活支援サービス」「高齢者による、地域共生社会実現活動」「高齢者と他世代との交流」「レクリエーションを通じて高齢者の生活を豊かにする」等本会の今後の「地方発 福祉文化の創造」の福祉文化実践活動を継続的に展開し成果をあげたために応募した静岡市社会福祉協議会の推薦をいただき申請をした。



「静岡福祉文化を考える会」活動のプロセスを基にブログ立ち上げ 「日本福祉文化学会ホームページ」とリンクで広く情報発信中

<https://blog.canpan.info/shizuoka-fukushi/>

本会では、結成15年後の2011年度から2013年度までの3年間、当時の会員がブログを開設し、熱心に、日々の活動をアップし、県内外に福祉文化実践活動を発信していた。しかしながら、残念ながら、残念にも、その後、継続的な取組みに至らずそのままになっていた。2017年度に入り、「日本財団 canpan」に本会活動を登録し、各種助成事業の申請に有効活用してきた。2019年度に「焼津福祉文化共創研究会」(会員13名のうち本会会員6名)が誕生し、これからの地域活動は、特にコロナ禍の中、より積極的に、県内外への福祉文化実践活動の情報発信の必要性を確認し、これまでの活動実績のデータ入力作業に取り組んでいる。そして、このたび「日本福祉文化学会」の承認をいただき、8月以降、「学会HP」と「静岡福祉文化を考える会」及び「焼津福祉文化共創研究会」の各ブログとリンクすることができた。「地方発 福祉文化実践活動」の“見える化”は、既に大きく動いている。

ぜひ、アクセスして下さい。

	静岡福祉文化を考える会	焼津福祉文化共創研究会
8/3	885	3,543
8/8	1,278	3,994
8/24	2,402(+1,517)	5,512(+1,969)

参考 ※学会とのリンク後のアクセス件数



●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか。

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災(1995)翌年度の平成8年9月1日に発足し、2020年度に25年の節目を迎えました。さらに、「静岡発 福祉文化の創造」が定着していけるように努力してまいります。

本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」のもと、さまざまな分野で活動している会員が、地域社会全般の課題解決に向けて市民の視点で活動をしています。

- ◇ 会費：社会人 3,000 円 大学生以下 1,000 円
- ◇ 問い合わせ：420-0841 静岡市清水区追分 3-5-17
NPO 法人泉の会内 静岡福祉文化を考える会事務局
Tel054-367-2878 Fax: 054-367-2884

編集後記

2020年度も5か月があっという間に過ぎた。しかし、社会全体に、「コロナ禍」そして「猛暑による熱中症」で落ち着かない。こうした時期に、本会の活動を振り返り、新たな地域づくりに向けた活動の取組みを「協働」を基に、真剣に考える時期と受け止めたい。これこそ、「25年の節目」の課題と感じる。これまで、24年間、取り組んできた様々な活動をまとめ「ブログ立ち上げ」をした。「日本福祉文化学会」による「地方発福祉文化の創造」として誕生した本会は、学会HPとリンクすることの承認をいただいた。今こそ「福祉文化の見える化」努力中。